



船形地区の第二福祉ゾーン

地域生活支援拠点の整備

市で第二福祉ゾーンとして整備を進めている船形地区には、すでに生活介護事業所「ひばり」、共生

連携して、地域における障がい者への支援体制の整備を推進します。障がい福祉計画そのものは3年間の計画ですが、少なくとも1年に1回実績を把握し、障がい者施策や関連施策の動向も踏まえながら分析・評価を行い、必要な時には計画の変更や事業の見直しなどを実施します。

活援助事業所（グループホーム）「ほっと」、「ぱーる」が開設されています。

そして、平成29年4月には障がい者にも対応した90床の特別養護老人ホーム「船形福祉施設サルビア（仮称）」が、30年4月には障がい者グループホームが開設の予定で計画が進んでいます。

さらに新たな施設を建てることにより、地域生活支援拠点としての整備を進めていきます。この地域生活

支援拠点の機能については、24時間体制の相談受付、緊急時のシヨートステイなどを現在検討しています。障がい者支援課



障がい者対応特養老人ホームは平成29年に開所予定（イラストはイメージです。今後の検討にともない変更の可能性があります）

心のバリアフリーを 自助、共助、公助で



野田市障がい者団体
連絡会 会長
加藤満子 さん

私たちは基本姿勢を「自分たちで出来ることを精一杯努力しよう」として自助努力を第一に、そしてお力添えくださる方の人の和を大切に、どうしても自分たちの力で出来ないことは行政に助けていただこうと考え、活動しています。

市とも、書類だけのやりとりではなく、実際に顔を見合わせながら施策を話し合う機会も設けられ、加えて、ハード、ソフト両面での支援をいただき、新しいことにもチャレンジできています。その活動の中で、多くの方とふれあい、障がいに対する理解が広がっていくのを感じてきました。

また、新庁舎を建設する際に、障がい者が働くことのできる喜びが得られるように、社会参加の場として常設の喫茶店を提供していただきました。そこでは演奏家の皆さんのご協力により、平成5年から月に1回、定期的にミニコンサートの開催も継続できています。

INTERVIEW